

広報

にしあいつ

No. 646

8

2012
(平成24年)



はつらつガールズで熱戦

P 2～5 特集 集落の今とこれから
P 6～7 橋屋橋整備・福島県代行事業探択
P 8 -シリーズ- 伝承員「技」紹介



— 特 集 —

集落の今とこれから



高齢化率50%以上の集落数 (平成22年4月総務省調査)

地 区	自治区数	左のうち 高齢化率 50%以上
野 沢	22	1
尾 野 本	21	4
群 岡	9	3
新 郷	17	7
奥 川	21	13
合 計	90	28

※高齢化率とは65歳以上の高齢者の割合

いま町には90の自治区がある。その中で高齢化率50%以上のいわゆる「限界集落」は28を数える。「限界集落」という呼び名に賛否はあるが、若者が集落を離れ年々高齢化が進み、それに伴って集落の中で従来行われてきた共同作業や行事が難しくなっている集落があるのは確かだ。

今回の特集では、高齢化が進んだ集落の現状と町の「集落支援」の取り組み、集落独自の取り組みなどから、これからの集落維持のあり方について考える。

高齢化・過疎化が進む集落

年々難しくなる共同作業

6月のある平日の朝、大舟沢地区の集会所（旧奥川小学校大舟沢季節分校）前には集落の皆さん7人ほどが集まってきた。集会所周辺の草刈りと花壇づくりをするためだ。そこに集落支援員の星眞智子さんと岩橋義平さんが手伝いに駆け付け、共同作業が始まった。作業は2時間ほどで終了したが、うっそうと茂った雑草の刈払いや荒れた広場の一角を花壇にする作業はなかなかの重労働である。



作業はほとんどが女性



大舟沢区長の五十嵐さんは何役もこなす

集落の皆さんに混じって、集落出身で会津若松市に嫁いだ田場川洋子さん（旧姓：五十嵐）が作業に参加していた。「母親がいたので、しょっちゅう村に帰ってくる。できることは協力していきたい」と話していた。集落から出て何かあればすぐ駆け付けてこられる人がいるのは心強いであろう。

自治区長の五十嵐靖夫さんはこの日ブルドーザーを持ち込み花壇づくりの造成作業に励んでいた。五十嵐さんは、「昔大舟沢には21世帯あったが今は9世帯になってしまった。人がいなくなつて困つた」と話す。人足などの共同作業も男手が少

なくなり区長の負担は大きい。かつては毎年交替でやっていた区長の職もなかなか譲れず今年で3年目となり、会計も兼ねているという。

頼りは町外に出ている子どもたち

弥生地区の自治区長 佐藤朝美さんにも話を聞いた。「一番人がいなくなつて大変なのが人足である。町道の草刈りは、会津若松など近くにいる息子たちに手伝ってもらわないとできない」と話す。また、個々の暮らしでは「病院などの送り迎えは大抵子どもたちが来てやっている」とのこと。子どもたちとは離れて暮らしているが、連絡を取り合い、病院の送迎や買出しなどの助けを受けている人が多いようだ。

しかし佐藤さんは、「みんな行くところ（子どもの暮らす家）はあるが、体が動かせなくなるのは、がんばってここで暮らすうと思つている」とのこと。できるだけ長く弥生地区に暮らし続けたいというのが地区の皆さんの思いだ。

弥生地区も数年前までは区長職を1年交替としていたが、今は譲ることができず佐藤さんいわく「万年区長」の状態だ。やはり大舟沢地区同様区長の負担は大きい。

「分校（旧奥川小学校弥生分校）があったころは、学校と一緒に自治区の運動会をやつたり、学校の広場で懸賞盆踊り

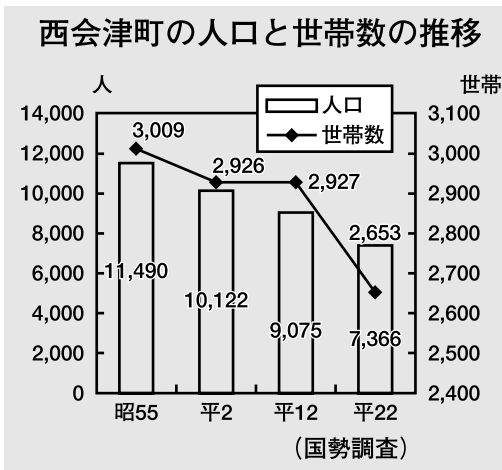
大会もやっていた」とにぎやかだったころを懐かしそうに語っていた。



現在8戸9人が暮らす弥生地区

世帯数が急速に減少

近年、人口の減少とともに世帯数の減少も進んでいる。集落機能の低下や空家の増加などが懸念される。



町の集落支援の取り組み

集落支援員の配置

町では、高齢化による集落機能の低下など集落の課題に対応するため平成23年6月から集落支援員1名を配置した。集落支援員は高齢化が著しく進み集落機能の維持が困難な弥生、弥平四郎、大舟沢、荒木の4集落について重点的に訪問し、課題の把握や話し合いへの参加、各種事務手続き支援、高齢者活動支援などを行っている。平成24年5月からはさらに支援員1名を増員し、2名体制で支援活動の充実を図ることとした。現在は奥川支所に常駐している。



高齢化への対応

集落の高齢化や人口減少は、私たちの暮らしの中で、住民同士のつながりの希薄化を進行させ、近所づきあいをしない、困ったときに頼れる人がいない『社会的孤立』と呼ばれる現象を引き起こし、健康問題や犯罪被害につながり、新たな社会問題となっている。

こうした問題に対応するため、住民による地域での支え合いとして、「地域サロン活動」や「見守り活動」などが注目されている。「地域サロン活動」は、身近な場所が集まり、お茶を飲んだり、レクリエーションを楽しんだりすることで交流や仲間づくりを進め、安否確認や見守りの場にするとともに、介護予防や防犯・防災などの効果が期待できる。町では、集落にサロンをつくりたいという希望があれば、集落の実情に応じた開催の支援を実施している。

また、高齢者等の介護予防・認知症対策として、各集落に向いて運動や栄養改善、認知症などをテーマに各種教室を開催している。

集落支援員に聞く

〈支援業務にあたっての感想は〉

星 支援員 訪問している集落には、

体は不自由になってきている人も、集落

のためにがんばっている人が多い。

岩橋支援員 急速に進む高齢化には驚

いている。まずは集落に向き、話を

することから始めたい。

〈集落の現状は〉

星 支援員 草刈りや除雪作業の負担

が大きい。

岩橋支援員 重点的に入っている4集

落はいずれも区長さんの負担が非常に

大きい。

〈活動する中で難しい点・苦勞してい

る点は〉

星 支援員 皆さんが困っていること

を的確に把握し具体的な支援につなげ

ること。

岩橋支援員 集落に入れば個人的な問

題も出てくる。どこまで立ち入ればよ

いか悩む。

〈これからのような集

落支援が必要と考えるか〉

星 支援員 草刈りや除

雪の支援を継続していく

こと。また、集落の資源

を活用した集落の活性化

支援。集落の方ができる

だけ長く楽しく住み続け

られるのが理想。集落出

身者や学生の力を借りて

の再生も考えられる。

岩橋支援員 物的支援よ

りも人的支援。道路の草

刈りや住宅周りの除雪等。

また、一人暮らし高齢者

への話しかけなど。行政

側は各課横断的な対応も

必要。



星眞智子 支援員

岩橋義平 支援員

魚のつかみ取りと盆踊り大会 (黒沢地区)

黒沢地区では20年ほど前から毎年お盆に魚のつかみ取り大会を開催している。集落内を流れる長谷川にイワナを放流し、地区住民と帰省客が一緒になってつかみ取りするというもの。また、その日の夜には盆踊り大会を開催し、地区住民と集落出身者が1日楽しく交流を図っている。黒沢地区の夏の恒例イベントとなっている。



▲月2回開催の下野尻老人クラブ健康体操

須刈ふれあいネットワーク (上野尻地区)

須刈ふれあいネットワークは、上野尻地区の一人暮らし高齢者などを対象に、見守り活動や一声運動などを行っている。この組織は、自治区長や民生委員のもと各組に配置された「世話人協力者」と呼ばれる住民が「夕方電気がついていないか」など、高齢者を見守り、何かあれば民生委員や区長に連絡するというもの。年に3回、役員と関係機関(町、町社会福祉協議会、にしあいづ福祉会、群岡郵便局)が集まり情報交換も行っている。



毎月誕生会を開催 (向原地区)

向原地区(自治区の一部)では5年ほど前から集落内の融和と交流を図るため毎月地区住民の誕生会を開催している。子どもから高齢者まで集落全員が対象でほとんどの住民が参加するという。



各集落の取り組み

集落独自でも地区住民同士や集落出身者とのつながりを維持しようとしてさまざまな取り組みを行っている。継続した取り組みを行っている3つの集落の事例を取りあげた。集落の実情は違うが、地区住民の理解と協力があって実施されている。

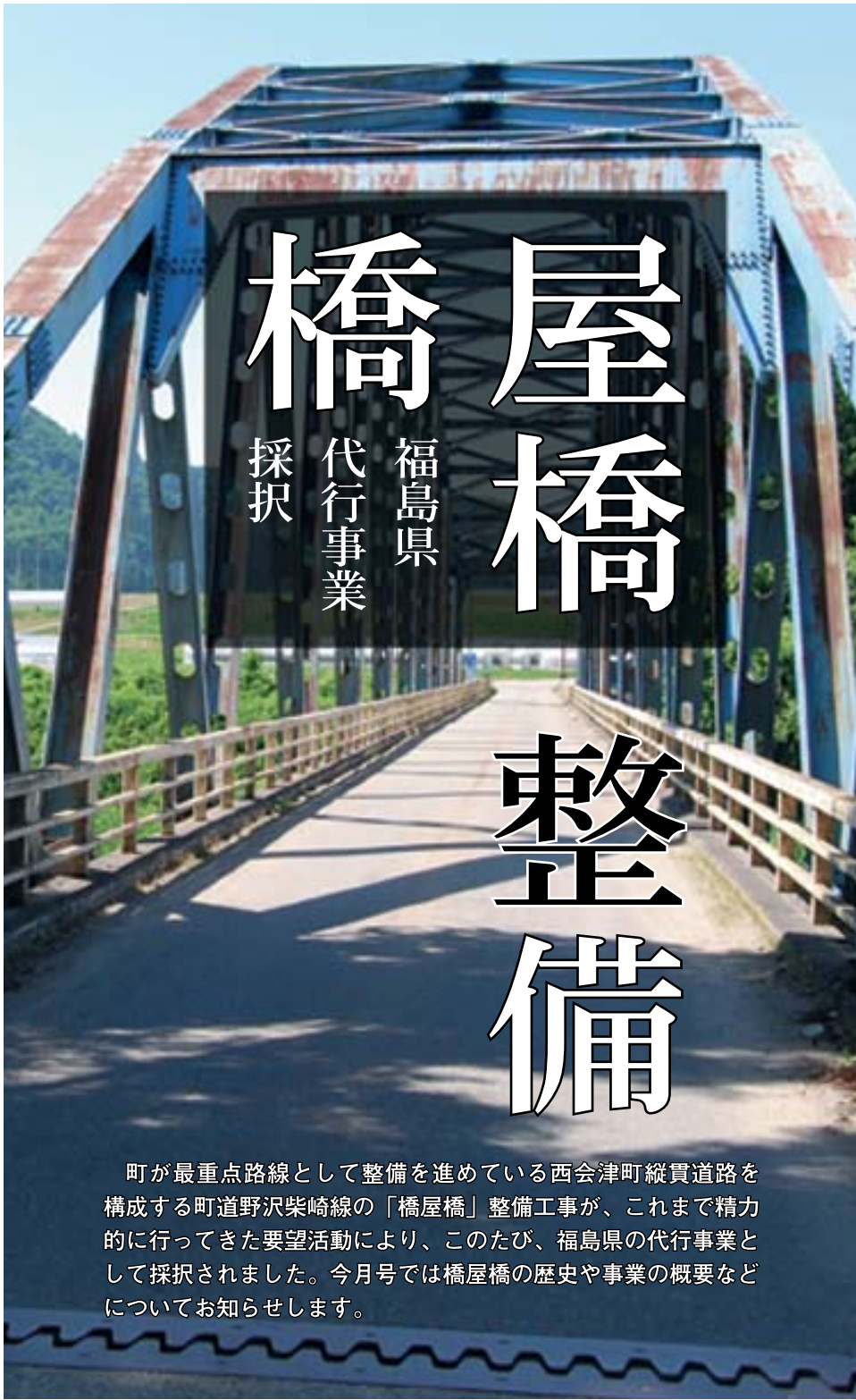
集落の課題と 今後の支援

本町の集落の現状から、次のような課題が明らかになっている。

- 困難になる共同作業
- 空家対策
- 冬期間の住宅周りの除雪
- 自治区長の負担増
- 集落出身者とのつながりの維持
- 高齢者の健康対策
- 森林・農地の荒廃 など

西会津町は今後も人口の減少が続き、過疎・高齢化が進み集落が抱える課題も一層深刻になることが予想される。集落の存続が危うい集落も出ている。しかし集落に暮らす人の多くは、高齢になってもできるだけ長くその集落に住み続けたいと思っている。

今後、行政はどのような役割を果たせばよいのか。地域ではどのように集落を維持していくのか。私たちが向き合っていかなければならない課題である。



橋屋橋 整備

福島県
代行事業
採択

町が最重点路線として整備を進めている西会津町縦貫道路を構成する町道野沢柴崎線の「橋屋橋」整備工事が、これまで精力的に行ってきた要望活動により、このたび、福島県の代行事業として採択されました。今月号では橋屋橋の歴史や事業の概要などについてお知らせします。

今年度から詳細設計 来年度に着工予定



▶現在の「橋屋橋」の完成を祝う渡りぞめ、右は「つり橋」(昭和49年5月)

昭 和33年、橋屋集落と野沢地区を結ぶ橋が初めて架けられました。長さ150メートル、幅わずか1・5メートルの木造の「つり橋」でした。この橋の工事は町が行い、工事費については、約8割が東北電力からの発電所建設に伴う舟場の補償費で賄われました。

昭和36年には、新郷小学校三河分校が廃止され、橋屋の児童は全員このつり橋を渡り、野沢小学校に通うようになりました。

現 在の橋屋橋は、昭和47年から始まった県宮尾野本地区農地開発事業(橋屋・戸中間の農地約110ヘクタール

安全・安心の確保と地域活性化のため

の開発事業)の幹線道路として整備されました。橋の長さは162メートル、幅が4メートルの永久橋(耐用年限が50年以上の橋)で、工事費1億3,700万円余りが投じられ、昭和48年に完成し、翌年5月には、地元の方々が出席のものと待望の渡りぞめが行われました。

従来のつり橋では耕運機の通行がやっとでしたが、自動車での往来が可能となり、現在の橋屋橋は完成以来38年余りに

わたり、地域農林業の振興をはじめ、奥川・新郷地区と野沢地区を結ぶ生活道路としての重要な役割を担ってきました。

町 では、奥川地区から町の中心部、さらに緊急時には会津若松市の第3次救急病院までを短時間で結ぶ道路整備を促進するため、平成13年度に、奥川・新郷地区の町議会議員と自治区長の皆さんとともに「町縦貫道路整備促進期成同盟会」を立ち上げました。

これは奥川・中町から新郷を通り、野沢・芝草に通じる県道と町道野沢柴崎線を町縦貫道路と位置づけ、その整備を促進し、交通の円滑化と地域の発展を図ることを目的とするものです。

この中で橋屋橋については、技術や財政面において町が工事を行うには大規模な事業であることから、町に代わって県



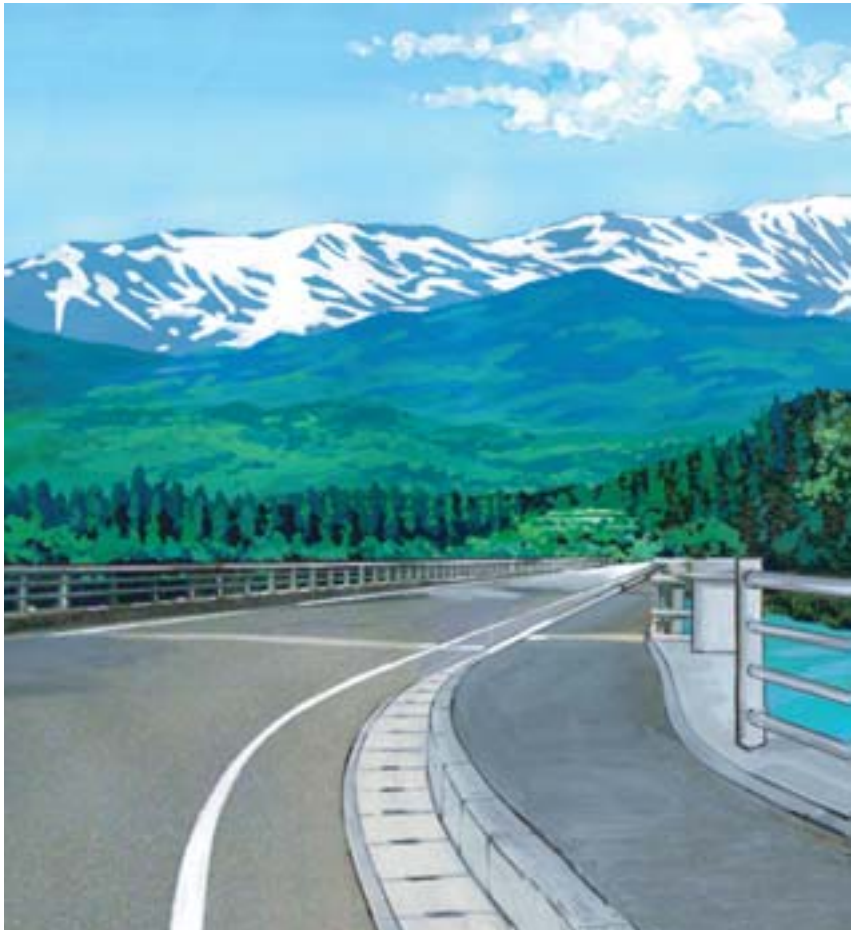
橋屋自治区長
うえの すずむ
上野 進 さん

阿 賀川につり橋が架かるまでは、舟で対岸に渡っていました。5年生になり野沢小学校に通学する際、毎日、舟番の保護者が送ってくれたことを今でも覚えています。

その後、つり橋が完成しましたが風が吹くと橋は揺れ、また幅が狭く、橋の両脇に金網があって、そこに耕運機が引っ掛かり苦勞していました。さらに降雪時には雪下ろしが必要で大変でした。昨年7月のような豪雨があれば、つり橋はおそらく流されていたと思います。

現在の橋ができると、ブルドーザーで除雪できるようになり集落では大喜びでした。一方で事故にはなりませんでしたが、橋のアーチに積もった雪が落ちて危険なこともありました。

今後整備される新しい橋は、幅が広く、また歩道が整備され、アーチ部からの落雪の心配もなくなります。さらに見晴らしが良くなり、阿賀川筋の素晴らしい景観を楽しめると思いますので完成が待ち遠しいです。



▲新しい橋屋橋の完成イメージ図（野沢地区側からのイメージ）、周囲の景観に配慮し、現在のようなアーチが無い箱桁橋の構造で整備される計画



▲橋屋橋現地視察調査で来町した佐藤知事（平成24年7月5日）

が工事を行う県代行事業となるよう要望活動を行ってきました。
具体的には、毎年春に行われる県喜多方建設事務所との地域づくり検討会での要望をはじめ、町縦貫道路整備促進期成同盟会の役員による県土木部等への要望活動など、機会をとらえては繰り返し行ってきました。

こ れから架けられる新しい橋屋橋は、長さが180メートルの鋼床版箱桁橋という構造で整備される計画で、町内では最も長い橋となります。また幅も広がるため、対向車が来ても手前で停車する必要がなくなります。
新しい橋は、現在の橋屋橋の上流側に建設される計画です。

町道野沢柴崎線の整備、橋屋橋の完成によって、緊急時などの町民の皆さんの安全・安心確保や、地域の活性化に寄与するほか、奥川・新郷地区から西会津小学校に通学する児童の負担軽減を図るためにも本路線の整備促進が急務となりました。このたび、橋屋橋の整備が県代行事業で実施されることにより、工事が大幅に進むこととなります。
本年度は、橋の詳細な設計が進められ、来年度には着工される計画です。
町では、今後も橋屋橋や町縦貫道路の早期完成に向けて、引き続き県への要望活動を積極的に行っていきます。



▲38年余りの長い間地域をつないできた現在の橋屋橋

町では、町内の貴重な民俗芸能や伝統技術などを保存し、後世に伝えるため、新たに「伝承員制度」を創設しました。

この伝承員への認定証交付式は本年3月に行われました。

今月号から伝承員に認定された6名の方々を紹介していきます。

「いっつの時代から黒沢早乙女踊りが伝承されてきたのか定かではありませんが、豊作を祈願し、正月などに踊られてきたものが、祝いの席、娯楽の場などでも踊られるようになり、今日まで踊り伝えられてきたものです。これからは黒沢の額に記されており、早乙女踊りは黒沢の皆さんによって婚礼や孫祝いなどの慶事に踊り継がれてきました。

この踊りは、只見町・小林や会津美里町・佐布川の早乙女踊りと旋律や歌詞などがよく似ているため、これらと同じ系統のものといわれています。

踊りには両手に羽子板を持って踊る「へら踊り」、扇子を用いる「扇子踊り」、1メートルほどの棒を持って踊る「棒踊り」の3種があり、現在、棒踊りは、その型が分らず踊られていません。

町内の各集落単位で敬老会が開催され、催されたところは、黒沢でも敬老会が催され、踊りが上手な人、好きな人が中心になって1カ月もの間、練習を繰り返す、敬老会の余興として踊りを披露するなど、当時は、興味を持つ人たちの手によって、自然な形で継承されてきました。時代が移り変わり、平成元年、

シリーズ

1

伝承員「技」紹介



民俗芸能・黒沢早乙女踊り

わたなべ ひらく
渡部 啓さん [黒沢]

◀はやし方(男性)の法被と太鼓

早乙女(女性)の衣装と扇子(左)・へら(右) ▼



渡部宇一さん(黒沢)によって保存会が組織され、町からの補助などをもとに、約20年にわたり宇一さんが中心となって早乙女踊りは守られてきました。

「私」は平成22年11月に宇一さんから受け継ぎ、保存会の代表を務めています。この早乙女踊りは、黒沢に代々受け継がれてきた民俗芸能であり、黒沢の宝・財産を絶やしたくないという思いで、保存会の代表を引き受けました」と渡部啓さんは代表に就いたその思いを語りました。

啓さんが代表になってからは、この間、保存・伝承を主体として、国際芸術村の公募展や町老人クラブ演芸会において踊りを披露してきました。現在は、はやし方5名、踊り8名による伝承のための練習が繰り返されています。

「皆」さんに協力してもらい活動しているので苦にはなっていません。活動を継続するための資金面で課題はありますが、長く続けるため参加者の負担にならないよう、細く長く自然な形で継続することができればいいと思います。約400年もの間続いてきたものを誇りに思い、宇一さんが私につないでくれたように、私も若い世代に伝え、後世に継承していきたい」と啓さんは今後の抱負を述べました。最後に啓さんは「黒沢には蝦夷神社などの文化財もあります。建物のようにかたちはありませんが、早乙女踊りも同じ財産であり、無くしたくないです。伝承員に認定されましたが、今までと変わらず代表として活動を続けていきたいと思えます」と強調しました。



佐藤芽生さん全日本卓球選手権大会出場

今年度の全日本卓球選手権大会に出場する佐藤芽生さん（西会津小2年・下小島）が、7月9日、西会津卓球クラブの佐藤重雄会長とともに出場報告のため町役場を訪れました。

芽生さんは小学1年から卓球を始めたばかりですが、本年4月に開催された県卓球選手権大会のバンビ女子（小学2年生以下）シングルスで7位入賞を果たし、7月27日から神戸市で開催される全国大会への出場を決めました。芽生さんは「大会では一つでも多く勝てるようがんばります」と伊藤町長に健闘を誓いました。

功績をたたえ

今年の春の叙勲で元 町消防団第2分団長の鈴木洋さん（軽沢）が瑞宝単光章を受章し、7月11日、町役場で伊藤町長が立ち会いのもと石井県会津地方振興局長から鈴木さんに勲記と勲章が伝達されました。

鈴木さんは、昭和37年6月から平成16年3月までの41年余りの長きにわたり町消防団員として災害の予防、警戒、鎮圧にあたるとともに、消防学校に入校するなど率先して訓練に励み、また、庶務本部長として消防団の運営に尽力したほか、平成10年7月からは第2分団長を務め、町政の向上発展に多大な貢献をされました。



町商工会から善意

6月28日、町商工会の伊藤眞一会長が6月10日に開催した「町民親善チャリティーゴルフ大会」で寄せられたチャリティー金寄付のため、町役場を訪れました。

このゴルフ大会は今回で19回目を数え、約50名の愛好者が参加のもと会津磐梯カントリークラブ（会津若松市河東町）で開催され、参加者はゴルフを通して親睦を深めました。

伊藤町商工会長は「町づくりに役立てていただきたい」と伊藤町長に寄付金を手渡しました。

公害防止協定を再締結

町は6月29日に、柳津町、(株)あいづダストセンターとの3者の「産業廃棄物処理に係る公害防止協定」を締結しました。

町ではこれまでも同じ3者での公害防止協定を結んでいましたが、放射性物質汚染対処特別措置法が完全施行され、放射性物質に係る法基準が示されたことなどから、県、柳津町と連携のもと従来の協定内容を見直してきました。その後、町議会と町民の皆さんへの説明会等を行い、このたび、産業廃棄物の所管官庁である県会津地方振興局が立会人として加わり、協定を再締結しました。

写真：(右から) 石井県会津地方振興局長、伊藤町長、井関柳津町長、(株)あいづダストセンター・一重代表取締役社長



みんなできょう육てを応援!

最近、育児にストレスや不安を感じている母親が増えているといわれています。

この原因の一つとして、少子化が進んで核家族での子育てが増え、この結果、子育てが孤立化してしまい、育児に対する不安や負担が増すことが指摘されています。

育児は母親のみならず、父親や家族みんなで関わりを持つことが重要になってくるのです。



育児ノイローゼとは?

育児で肉体的、精神的なストレスがたまり、育児ノイローゼになるケースも少なくありません。

- 元気がなく、表情もなくなる
- 食欲がなくなる
- 物忘れが激しい
- マイナス思考になる
- 悲観的になる
- 引きこもりがちになる

といったことが育児ノイローゼのサインです。自分自身では気づきにくいので、家族や周りの人が気づいてあげることが大切です。

お母さんの悩みて?

現在の母親は、以前に比べて育児に十分な情報や手本はあるものの、自らの幼少時代に乳幼児の世話をした経験が少ななど、子どもと接する機会や、育児経験が少ない方が多いようです。

また、一生懸命に子育てをしても誰からも褒められない場合が多く、「育児はこれでいいの?」といったように、自分が行っている育児に自信が持てなくなり悩んでしまいます。

大変だけど、楽しい子育てに!



「子育てサークルに参加して」



目黒智恵さん・心温くん [牛尾]

子育てサークルに参加するようになって2年になります。私は猪苗代から嫁いできたので知り合いがいませんでしたが、このサークルを通して、同じように子育てに奮闘しているお母さんの友達ができ、毎週楽しく参加しています。近所に同世代の子どもがいないので、サークルに参加することで、子どもも楽しい時間を過ごしています。

子育てお母さんを応援しています

育児は、毎日の子どものお世話や心配ごとで大変だと感じている方が多いと思います。

初めての子育ての方はもとより、2子目、3子目であっても、1子目と同じように子育てがうまくいくとは限りません。それぞれ子どもには個性があり、いろいろな悩みが生じます。町では、生後4カ月までのお子さんのいるすべての家庭を訪問し育児に関する相談を行っています。

【問い合わせ先】

健康福祉課・健康支援係 ☎45-4532

親子で交流してみませんか

同じように子育てをしているお母さんと情報交換したいのに、なかなか機会が無いと感じたことはありませんか?

芝草保育所では、月曜〜金曜の午前9時30分〜11時30分に親子の遊びや育児の情報交換などを行っています。申し込みやお問い合わせは芝草保育所に連絡ください。

【申込・問い合わせ先】

芝草保育所 ☎45-2679



幻想的な雄国沼を散策

新郷いきいきクラブでは、7月6日に雄国沼周辺で、沼の成り立ちや動植物について学習しました。

当日は、残念ながら霧がかかり遠くの景色があまり見えない状況でしたが、高原植物のミズバショウなどが咲き、特に霧の中でニッコウキスゲが満開に咲き乱れる幻想的な風景が見られました。

参加者は、講師の「もりの案内人」から高原に自生するさまざまな花木などについて説明を受けながら学習し、普段目にすることができない自然を十分に堪能していました。



新郷いきいきクラブ

自然に親しむ

白鳳山公園の自然を学ぶ

女性講座では7月10日に会津美里町の白鳳山公園を散策しました。

この白鳳山公園は県立羽鳥自然公園に指定され、また山頂付近の向羽黒山城跡は国指定史跡にも指定されています。

当日は天候に恵まれ、もりの案内人からサルトリイバラや松の木などについて詳しく話を聞いて会津地域の自然について学習しました。

女性講座



「会津の自然を伝えたい」

福島県もりの案内人の会
齋藤和則さん〔上野尻〕

福島県もりの案内人は、自然観察会や野外活動、森林づくりなどを通して、一緒に学びながら森林の役割や大切さを広く県民に伝えていくボランティアの指導者で、福島県が認定しています。

県内では445人が認定されており、齋藤和則さんはその一人です。

齋藤さんは、平成20年に認定を受けて以来、主に学校の授業や公民館の講座において、広く子どもからお年寄りまでを対象に、町内をはじめ会津地域の自然について町民の皆さんに伝えています。

今回開催された新郷いきいきクラブや女性講座、西小わくわくクラブの休日活動は、齋藤さんに講師を務めていただきました。

「もりの案内人として自然観察会などを通して子どもたちや町民の皆さんに森林の大切さと役割を伝えていきたい」と齋藤さんは抱負を語っていました。

これからも齋藤さんは、たくさんの人たちに人間と森の共生の重要性などを伝える活動を続けていきます。



西小わくわくクラブ

安座川に子どもたちの歓声

7月22日に安座地区において西小わくわくクラブの休日活動が行われ、子どもたち46人と保護者らが「魚のつかみ取り」に挑戦しました。

安座集会所前の安座川で行われたこの活動では、金網を張った川に約120匹のイワナやヤマメが放流されました。

子どもたちは石の下や、岩の間に隠れている魚を悪戦苦闘しながらつかまえて歓声を上げていました。

つかまえた魚は、早速、集会所前の広場で塩焼きにして食べ夏休みのひとつの思い出をつくりました。



町民バトンタッチ

つかはら てつ や
塚原 鉄也さん [下野尻]

やなだ こうえい
築田 拡栄さん (7月号から) メッセージ

いつもその笑顔に癒やされています。サッカーがんばりましょう。

あなたの趣味は？
料理

特技は？
フットサル

最近感動したことは？
香川真司のマンチェスター・ユナイテッド入りとEURO2012のスペイン優勝

自分を一言で表現するとしたら？
マイペース

熱中していることは？
群岡フットサル (人数不足のため参加者募集中)

あなたのモットーは？
愛と平和とほんの少しの笑い

これからやってみたいことは？
夏はやっぱり大勢でのパーベキューですね

次の方を紹介してください
J・Oさん (下野尻)

あなたの宝物は？
『友人です(右写真・番左)』
「彼は笑いの神様です。いつも
も拜んでいます(笑)」



町民 ギャラリー

聞いて！ わたしの夢

こすもす俳句会

ここでは西会津中学校の生徒の皆さんに、自分の思い描いている夢や目標などを話していただいています。

今日は、2年・生徒会書記の津川莉奈さんです。

わたしの夢——

「私の将来の夢は、看護師になることです。その理由は、病院に行ったとき、忙しく大変な状況の中でも笑顔を忘れずに患者と接している看護師さんの姿を見て、私もこの職業に就いて患者の不安を少しでも多く取り除いてあげたいとあこがれたからです」



努力していること——

「そのために、授業の予習、復習をすることと、つらい時でも笑顔を忘れないことを心がけています。また、進路についても考えるようにしています」

最後に未来の自分に一言——

「未来の私は、自分の夢をかなえ、充実した生活を送っていますか。つらいことがたくさんあると思いますが、笑顔を忘れずにがんばってください」

人住まぬ旧家の庭の花ぎぼし

合歡の花いい子いい子と囁けり

手を合はす地蔵の上の花ざくろ

籠に挿すハーブの揺るる夏座敷

老鶯にあはせ口笛吹いてみる

遠藤せつ子 (喜多方)

斎藤フミ子 (四町内)

高濱悦子 (八町内)

星勢津子 (七町内)

斎藤五早男 (上野尻)

【訂正】7月号の鈴木智子さんの俳句で「退院の日に」の添え書きが俳句「桐の香や余りし命包みけり」と混同しました。お詫びし訂正します。

まちの人口 ～7月1日現在～ (前月比)

人口	7,523人	(-19人)
男	3,626人	(-11人)
女	3,897人	(-8人)
世帯	2,813世帯	(-2世帯)

戸籍の窓口 ～6月受付分～ <敬称略>

お誕生おめでとう

加藤 瑠輝くん	賢一・悦子	6町内
平野 良沙くん	直之・良美	安座
田崎 百々香ちゃん	翔馬・香代子	出ヶ原
三瓶 華音ちゃん	剛寛・恵子	山浦

ご結婚おめでとう

佐藤 誠	5町内
安齋 育美	福島市
猪俣 佑慈	下小屋
大塚 麻衣	喜多方市
足立 和也	郡山市
小野木 千保	森野

お悔やみ申し上げます

齋藤 千代三 (86)	春 恵	夫	3町内
佐藤 昌子 (86)	重 敏	伯母	芝草
齋藤 正一 (69)	実	父	堀越
齋藤 正美 (85)	正 春	父	堀越
新田 透 (79)	幸 恵	父	萱本
鈴木 幸男 (93)	常 夫	父	松尾
野原 好子 (63)	光 次	姉	上小島
山口 昭雄 (66)	則 夫	父	上小島
猪俣 廣次 (78)	喜美代	夫	上野尻
齋藤 美喜子 (94)	啓 二	母	上野尻
平野 キクイ (100)	眞	母	下野尻
石村 敬吉 (82)	幸 子	夫	下野尻
上田 信夫 (61)	仁 志	父	井谷
佐藤 廣一 (84)	時 男	父	杉山
波田野 好子 (86)	和 信	母	中町
小椋 正志 (86)	スミエ	夫	弥平四郎
荒海 達 (86)	祐 子	父	小綱木
秋場 隆城 (93)	アイ子	夫	小綱木

町農業委員会 委員紹介

薄 茂兵衛さん
(平明)

任期：平成24年6月1日
～平成26年7月19日



このたび、会津農業共済組合の推せんを受けて農業委員会委員になりました。地域農業の振興・発展のため微力ながら努めていきたいと思っております。皆様のご指導とご協力をお願いいたします。

人権擁護委員の推せん

町では、本年9月30日で任期満了となる人権擁護委員2名について、6月町議会定例会で伊藤政憲さん、長谷川孝志さんを推せん候補者として議会に意見を求めた結果、適任と認められました。



長谷川 孝志さん
(下小屋)



伊藤 政憲さん
(6町内)



町ケーブルテレビの自主制作番組『東日本大震災を見つめて』が平成24年全国広報コンクール映像の部で入選しました。

入選した番組の内容は、大震災後の震災関連情報、被災者の受け入れや避難所の模様、ボランティア活動などのニュースを時系列に編集したもので、地域の今が映し出され、地域メディアとして伝え続けることへの意欲などが評価され受賞しました。

以下は広告です。内容については、広告主へお問い合わせください。

有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆大きさ 1枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆掲載料 1枠当たり5,000円/月

【問い合わせ先】

企画情報課・広報広聴係 ☎45-4536

町内5地区対抗球技大会から

7月15日、第3回目となる5地区対抗球技大会がさゆり公園で開催され、壮年ソフトボール、家庭バレーボール、卓球、バドミントンの4種目で各地区代表のチームが競い合いました。選手の皆さんは日ごろの練習の成果を発揮し力一杯プレーするとともに、選手同士親睦を深めていました。

こゆりちゃん
トピックス



- ①家庭バレーボールの試合・尾野本チーム
- ②同・群岡クラブ
- ③壮年ソフトボール [尾野本 対 新郷]
- ④壮年ソフトボール決勝戦 [尾野本 対 群岡] でのクロスプレー
- ⑤力投する尾野本チームピッチャー
- ⑥バドミントン競技
- ⑦壮年ソフトボール決勝戦の様相
- ⑧卓球競技



今月の表紙

町内5地区対抗球技大会[家庭バレーボール]に出場した群岡クラブの選手の皆さんは、得点を重ねるたび仲間の好プレーをたたえ喜び合っており、はつらつとしたプレーで熱戦を繰り広げていました。